

競技会主催者用 新型コロナウイルス対応版チェックリスト例 「JBA バasketボール活動再開に向けたガイドライン」概要

シーン	項目	チェック欄	備考
1 準備 (～競技会前日)	①試合会場・関係者の確認事項		
	(1) 主催者は感染対策責任者を定める。		
	(2) 各参加チームの感染対策責任者を確認する。		
	主催の感染対策責任者は参加チームの感染対策責任者に以下の事項を事前に伝達する。 (1) 以下の事項に該当する場合は自主的に参加を見合わせる事 体調が良くない場合 (例: 発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合) 同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる (3) 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合 (2) 当日参加する選手・スタッフ全員がマスクを着用する (3) 全員の健康チェックシートに記入し提出してもらう (4) 競技会に参加する上で主催者が示す注意事項を遵守してもらう		
	(4) 参加チームの感染対策責任者にそれぞれの地域の自治体から会場となる地域への移動制限が解除されており、会場への移動が問題なく行えることを確認する。		
	(5) 競技会に参加する全てのチームの選手・スタッフ全員が「新しい生活様式」に従って日々の感染症対策、健康管理を行っていることを確認する。		
	(6) 競技会に参加する全てのチームの選手・スタッフの中に濃厚接触者として2週間の健康状態観察中の人がないことを確認する。		
	(7) 参加チームの選手の保護者ならびに関係者全員が競技会・試合開催を了解しており、参加チーム、会場、試合数、トスアップ時間を理解していることを確認する。		
	主催の感染対策責任者は、事前に下記事項を試合会場の管理者等に確認する。 (8) ①試合会場が感染対策を十分に行っているか否か。 ②他団体がいつまで同会場を使用するか。直前に使用する場合、当該団体の感染防止対策が適切になされているか否か。		
	(9) 試合運営に関わる全員が感染対策を認知し、運営準備段階からマスクの着用、手洗いの取行を行う。		
	(10) 前日及び当日に体調の悪い人は躊躇せず申し出て会場に来ない、足を運ばないルールを試合関係者間で事前に徹底する。		
	(11) 試合に関わる全ての人 (主催者、ボランティア、試合会場、その他関係者) に健康チェックシートを提出してもらい健康状態チェックを行う (競技会開催日2週間前までの検温と行動記録の確認を推奨します)		
	(12) 健康状態チェックで準備段階で体調が悪い人がいた場合は、すぐに帰宅させる。		
	(13) 代表者・監督会議をWEBで実施する。または連絡・共有事項を事前にチーム代表者にメール展開することで、その代わりとする。		
	(14) 試合会場のロッカールームが狭い、換気がしにくい構造の場合、別の部屋を準備するか別の仮設ロッカーを設置する。		
	(15) ベンチで間隔を空けて座れるよう、追加ベンチを設置する。		
	(16) 可能な限り、更衣室、ベンチ、審判控室、トイレ等の消毒を行う。		
	(17) トイレの個室に「流す時は蓋を閉める」表示、洗面所に「手洗いは30秒以上」の掲示を行う。		
	(18) ドリンクを冷やすためのアイスボックス・イベントクーラーは使用しない。		
	②メディア対応		
	(1) メディア取材を事前申請制とし、会場のサイズに応じて記者の数を制限する。		
	(2) 取材メディアに対し、①-(2)の内容を確認する。		
	(3) 記者室、会見場が狭い場合、代替の場所を検討する。代替の場所がない場合は、取材メディアにその旨周知する。		
	(4) 選手と接触しないメディア動線を確保する。		
	(5) 取材者と選手が2m以上の距離が保てるミックスゾーンの設置を行う。		
	③観客対応		
	(1) (1) 新型コロナウイルスの感染拡大注意とされる地域においては無観客試合が推奨される。		
	(2) (2) 観客を場内に入れる・入れないの判断は、自治体ごとの集会・イベントに関する方針に従う。		
	観客入れる場合は、以下の点についてホームページ等で事前アナウンスを行う。 ①具合の悪い人は来場を見合わせてもらう ②マスクを着用してきてもらう (3) ③各自2mの間隔をあける。 ④声を出しての応援をしない等の事前アナウンスを徹底する。		
	(4) 来場者を場内に入れる場合は、サーモグラフィ、体温計による体温チェックを検討する。体温チェック実施困難な場合は、ゲートに人員を配置し、体調の悪い人は観戦をご遠慮いただくアナウンスをし続ける。		
	(5) 観客を入れる場合は、場内において(3)を徹底する。		
	(6) 飲食売店の運営を行う場合は、感染対策を徹底する。イベントクーラーを使用したドリンクやアルコール類の販売は行わないことを徹底する。		
	(7) 会場内各所 (入退場ゲート、トイレ) に設置するアルコール消毒液を準備する。(1ℓボトルで約300ブッシュ)		
	(8) 上記③-(3)-(6)の対応ができない場合は無観客試合として、事前にその旨をホームページ等でアナウンスする。		
	④備品の確認		
	(1) 感染対策実施のために必要な備品リストを作成し、当該備品の準備状況を前日までに確認する。		
	感染対策実施のために以下の備品を準備する。 (2) ①運営スタッフ用マスク (個) ②アルコール消毒液 (個) ③液体石鹸 (個) ④ペーパータオル (個) ⑤ゴミ袋 ⑥各自の飲料水用のボトル ⑦ドアストッパー		

2	試合当日	⑤運営スタッフの健康状態の確認、設置等		
		(1) 会場で運営に携わる人全員がマスクを着用していることを確認する。		
		(2) 人員配置を必要最小限に絞る。(明確な業務のない人は来ない)		
		(3) 試合に関わる全ての人(主催者、ボランティア、試合会場、その他関係者)の試合当日に健康管理表を提出してもらい健康状態チェックを行う(競技会開催日2週間前までの検温と行動記録の確認を推奨します)		
		(4) ⑤-(3)で体調が悪い人がいた場合は、どのようなポジションの人でもすぐに帰宅させる。		
		(5) 全て諸室のドアを全て開けた状態に保つ。(換気、ドアノブを触らないよう配慮。)		
		(6) 諸室の窓を全て開けた状態に保つ。(換気)		
		(7) 各諸室にアルコール消毒液を設置する。		
		(8) 各諸室でスタッフが正面に座らない座席の配置を行い、お互いが1.5~2mの間隔を空けるようにする。		
		(9) 各トイレに液体石鹸とペーパータオルを設置する。		
	(10) ロッカールームにおける感染防止の注意点を伝える。			
	⑥参加チームへの確認事項			
	(1) 両チームメンバー、スタッフの健康管理表を提出してもらい健康状態の確認を行う(活動日2週間前までの検温と行動記録の確認を推奨します)			
	(2) 両チーム、審判との握手を実施しない。			
	(3) 試合前のチーム集合写真撮影は行わない。			
	(4) 円陣を行わない。			
	(5) 得点時にハイタッチ、抱擁を行わない。			
	(6) コート内でも咳エチケットを守る。			
	(7) 同じボトルを他の選手と共有しない。			
	(8) タオル等、リネンを他の選手と共有しない。			
(9) コート上でチームメイト、審判員と会話する際にも距離についてしっかりと配慮する。				
⑦レフェリー(→審判員)との事前確認事項				
(1) 審判員の健康管理表を提出してもらい健康状態の確認を行う(活動日2週間前までの検温と行動記録の確認を推奨します)				
(2) 試合前のセレモニーを控えてもらう。				
(3) 試合前の集合写真の撮影は実施しない。				
(4) 試合の記録記載のために、選手、指導者、審判員等が共通の文房具類を使用する場合は、消毒する。				
3	試合後	後片付け		
		(1) 更衣室など窓を開け、更衣の順番についてはローテーションを組む等の工夫をする。		
		(2) シャワーの利用についてはローテーションを組んで交代で浴びる等の工夫をする。		
		(3) チームがメディアからの取材を受ける場合には、記者と選手の間隔を2m、また取材者同士の間隔を最低1m以上保つことを徹底する。		
		(4) 試合会場のルールに従い、ゴミを密封した状態で処分する。		
		(5) チーム出発後、ロッカールーム及び審判控室の消毒を行う。		
	(6) 担架を使用した場合は、消毒を行う。			
	事後対応			
	(1) 帰宅後14日以内に運営に関わった人の中から感染者が出た場合は、PBA/JBAに報告する。また参加チームの感染対策責任者にその旨伝える。			
	(2) 帰宅後14日以内に参加チームから感染者が出た報告があった場合は、PBA/JBAに報告する。			